

優秀賞

万博から考えた、未来の和歌山

かつらぎ町立妙寺小学校 六年

井関 乙葉

みなさんは二〇二五年日本国際博覧会（以下、関西万博）でどのような展示に興味を持ちましたか。私はドイツ館、スペイン館、オーストラリア館など様々な国の展示を見ました。ドイツ館では循環型社会について学び、スペイン館では海に関する日本とスペインの歴史を学び、オーストラリア館では自然の豊かさにおどろきました。どのパビリオンでもその国の事をもっと知りたくなりました。

私はたくさんのすばらしいパビリオンの中でも、特にパソナグループパビリオンの中に展示されていた、iPS心臓、iPS心筋シートに興味を持ちました。小さいのにしっかりと拍動するiPS心臓におどろいた一方で、紙みたいにくいiPS心筋シートはどのように使うのかとても気になりました。

そこで私はiPS心臓やiPS心筋シートでどのような病気の治療に役立てることができるのか調べてみました。すると、標準的な薬物療法や外科的治療を行っても症状が改善されなかった心疾患の新たな治療法として役立てることができるかと分かりました。

私が住んでいる和歌山県の第八次和歌山県保健医療計画によると、虚血性心疾患の年齢調整死亡率が全国で男性がワースト一位、女性ワースト二位と死亡率が高いことが分かりました。なので私はiPS心臓、iPS心筋シートが実用化されると虚血性心疾患の死亡率が低くなると考えました。そして現在の和歌山県の大きな課題でもある人口減少に貢献できるのではないでしょうか。

世界を知り、輝く未来の印象を大きく受けた関西万博。将来行ってみたい国や体感してみたいことができました。そして、

二つの小さな展示が、私の住む和歌山県の未来を支えるかもしれないという希望にとってもわくわくしています。